ライフル　ルール
（ＲＲ）
国内適用規定

ハンティングライフル
ビームライフル

注：当規定の条項番号は競技ルール（ＲＲ）の条項番号に対応している。従って当規定の適用に関しては規則の目的を十分把握の上実行されたい。
ＲＲに対応する条項がない国内独自の規定は、直前のＲＲ条項番号に枝番を付して示す（例：7.4.3-2 は 7.4.3 の次に置く国内独自条をいう）。
ＲＲ本文において、当規定の適用がある条項には、その条項番号の後に※を付す。

第７章 ライフル　ルール　（ＲＲ） 132

7.1　通則 134
7.2　※安全 134
7.3　射場および標的基準 134
7.4　※ライフルと弾薬 134
7.5　服装規定 142
7.6　競技運営手順および競技ルール 150
7.7　ライフル種目 151
7.8　索引 154

ライフル　ルール　（ＲＲ）　国内適用規定 158

7.1.1　本規定は国際競技規則（以下規則）の我が国への円滑なる適用、実行をその目的として制定される。競技会の実施にあたって問題等生じた場合、ジュリーは規則の目的に沿った解決、対処にあたらなければならない。規則に明記されない事態が生じた場合、選手に不利とならない公平な解決策をジュリーの責任のもとで採用するものとする。

7.2　我が国には独自の銃砲刀剣類所持等取締法があり、ゆえに他人の銃器の対する不用意な扱いは厳にこれを慎まなければならない。用具検査、安全に関わる事態に限り、規則を尊重する。

7.4　ライフルと弾薬

ライフル競技用具と弾薬の規格については、GTR6.7.6並びにGTR国内規定6.7.6も参照のこと。

7.4.1.2　１０ｍエアライフル３姿勢種目にも適用する。

7.4.1.6　満５０歳以上の選手による競技会に限り、スコープレンズ、レンズ作用や視力を強化するその他方法が組み込まれているサイトも使用できる。
スコープ等の倍率は制限しないが、スコープ等を含めたライフルの重量はルールの範囲内でなければならない。

7.4.3-2　**ハンティングライフルのみの規格**
ハンティングライフルとは、本規則にとらわれない狩猟用ライフル銃に代表される一般的な形態の銃をいう。

7.4.3-2.1　呼称と呼び方は、ＡＨＲ（エア・ハンティングライフル）、ＳＨＲ（スモールボア・ハンティングライフル）、ＢＨＲ（ビッグボア・ハンティングライフル）とする。

7.4.3-2.2　競技に使用できる銃の規格は以下の通りとする。

口径・弾薬	AHR	５．５ｍｍ以下の鉛弾
	SHR	※RR7.4.5
	BHR	１０．５ｍｍ以下のセンターファイア実包
重量	照準器を含み５．５Kg 以下	
引き金	１．０Kg 以上	
照準器	制限なし、ライフルスコープ（倍率自由）も使用できる。但し競技銃用マイクロサイトは使用できない。	
銃床	7.4.3 を基本とし、サムホールストック、競技用銃の変形銃床、可動式チークピース、パームレスト、装着ウエイト、装着銃架等は使用できない。	
ハンドストップ	スリングレール、ハンドストップは使用できない。	
バットプレート	調整機能を有するものは使用できない。	
スリング	幅３０mm 以下の物は伏射・膝射に使用できるが左手（グローブ）はフォアエンドの負皮止め金具に触れてはならない。スリングの中間に輪を作って腕を通しても良い。（ミリタリースリングは使用できる）スリングの両端をフォアエンドと銃床下部に固定して良い。スリングをコートのスリングキーパーで腕に固定しても良い。	

7.4.3-2.3　競技種目の詳細については各競技要項にて定められる。

7.4.3-2.4　採点はGTR6.3.5.2に規定される採点ゲージを使用することを原則とするが、GTR6.3.5.2　に規定されない口径の弾痕については目視で実施する。

7.4.4-2　ビームライフル

ビームライフルは別に定める「検定基準」に合格したものであり、外観上ビームライフル射撃競技に使用されることが明らかであるものでなければならない。

7.4.4-2.1　銃は１発ごとにボルトまたはレバー操作を行った時に光線を発射しうる機構を内蔵しているもので次の条件を含む。
①単発機能であること。
②光径８０±５mm
③光量１０mの距離において３０００ルックス以上
④銃身軸線からフロントサイトの中心までは６０mm以内とする。

7.4.4-2.2　競技は、屋内で実施されるものとする。

7.4.4-2.3　ビームライフル射撃競技の公認競技会における射撃距離（標的設置距離）は１０mとし、光学的反射を利用した射撃距離を採用してはならない。

7.4.4-2.4　バッテリーは競技開始前の用具検査において、検査に合格したものの使用が認められる。

7.5.8.1　国内では全ての種目で監的スコープが使用できる。

7.6.1.4　**肘射**

7.6.1.4.1　選手は椅子に座し、上体は両肘を射台について支えることができる。

7.6.1.4.2　選手は両肘の下にマット（厚さ５cm以内、約５０cm×約７５cm）を敷いてもよい。
ただし、マットは原則として主催者の用意したものでなければならない。

7.6.1.4.3　ライフルは両手と一方の肩によってのみ支えることができる。
スリング、ハンドストップの使用は認めない。

7.6.1.4.4　ほほは銃床に置くことができる。

7.6.1.4.5　左手より後方のフォアエンドに射撃ジャケットが触れてはならない。

7.6.1.4.6　ライフルはその他の体の部位または物体に触れたり、託したりしてはならない。

7.6.1.4.7　肘より前の前腕と射撃ジャケットの袖、ならびに肘より後方の上腕は、卓上面またはマットから明瞭に離れていなければならない。

7.6.1.4.8　左前腕は、水平面とその前腕の中心軸のなす角度が３０度以上になるようにしなければならない。

7.6.1.4.9　右手や右腕は左腕、射撃ジャケットに触れてはならない。

7.6.1.4.10　足を射台の脚にからめてはいけない。

7.6.1.5　**自由姿勢**

7.6.1.5.1　特に射撃姿勢を指定せず、着席することを含め制限されない。

7.6.1.5.2　据銃姿勢をとるにあたっては、依託台を使用してもよいが、銃器を依託台等に固定する装置の使用は認められない。

7.7.4　　ライフル種目一覧表（国内適用）　ISSF種目はISSFルール参照

種　　目	男／女	弾数	本射撃ち込み数（紙標的）		紙標的の試射的数	競技時間（ＥＳＴ以外）	競技時間（ＥＳＴ）
			G1,G2	G3,G4			
１０mエアライフル	男女	４０	１	１	４	６０分	５０分
	男女	２０				３５分	３５分
１０mエアライフル３姿勢	男女	６０	１	１	各姿勢４	２時間１５分	２時間１５分
１０mエアライフル伏射	男女	６０	１	１	４	１時間	１時間
	女	４０				５０分	５０分
５０mライフル３姿勢	男女	１２０	１	段級受験の場合は２発以内、伴わない場合は５発以内	各姿勢４	３時間１５分	２時間４５分
５０mライフル膝射	男	２０	１		４	３０分	３０分
５０mライフル伏射	男女	６０	１		４	１時間	５０分
		４０				４５分	４５分
		２０				３０分	３０分
５０mライフル自由姿勢	男女	４０	１		４	４５分	４５分
		２０				３０分	３０分
ビックボアライフル３姿勢	男女	120	300m は 10 発以内、150m、100m は、5 発以内	300m、200m は 10 発以内、150m、100m は、5 発以内、50m は 2 発以内	各姿勢１但し 50m は各姿勢２	３時間３０分	３時間
ビックボアライフル伏射	男女	４０				４５分	４５分
		２０				３０分	３０分
ビックボアライフル自由姿勢	男女	４０				４５分	４５分
		２０				３５分	３５分
ビームライフル立射	男女	６０	－		－	４５分	―
		４０				３０分	―
	男	３０				２５分	―
	女	２０				２０分	―
ビームライフル肘射	男女	６０				４５分	―
ビームライフル２姿勢（肘射 30 発＋立射 30 発）	男女	６０				４５分	―
ビームライフル自由姿勢	男女	４０				２０分	―
		２０				１０分	―

注１：準備と試射時間は印刷された開始時刻の前に始まる。
　　開始以降は、３姿勢種目を除き、本射のみ撃つことが出来る。
注２：表中のＧ１～Ｇ４の表記は、公認競技会の格付規程による。
注３：ゲーマン標的交換機を使用する場合の競技時間は、EST と同じである。
注４：標的交換設備のない場合の競技時間は、別途競技運営委員会が定める。
注５：多文的を使用する場合、ジュリーが許可した場合を除き、試射的のみに試射を行わなければならない。
注６：ビームライフルの準備および試射時間は各種目共に１０分とする